～剣淵町の地域素材～

１．剣淵町の概要

《町名の由来》

アイヌ語の「ケネペツ」。「ケネ」は「ハンノキ」，「ペツ」は「川」で「ハンノキの多い川」という意味

《沿　　革》

明治３０年天塩国上川郡に剣淵村・士別村・多寄村・上名寄村が設置されたことに始まり，明治３２年に屯田兵３３７戸が入地し，戸長役場が剣淵に置かれた。その後，明治３９年に２級町村制が施行され，自治体として歩み出した。

《位　　置》

北海道上川支庁管内中央より北側

《気　　候》

内陸性気候に属し，夏期は比較的高温多照に恵まれるが，晩夏から秋期にかけては曇の日が多い。雨量は春季に少なく秋期に多く，冬には雪が多く寒さが厳しい。

２．地域素材

《最後の屯田兵》

・素材説明

剣淵町は屯田兵制度最後の屯田兵として，明治３２年に３７７戸の入地および団体移住などによって開拓が進められた。この先人の努力により，農業を基盤とする剣淵町が形成された。

【剣淵町郷土資料館】

先人達の貴重な生活用品や農機具を見学することができる。

資料館１Ｆ	第１資料展示室	（時代ごと，生活のうつりかわり）
	第３資料展示室	（農機具展示）
	第４資料展示室	（学校関係資料）
資料館２Ｆ	第２資料展示室	（生活用品など展示）
	資料庫	（樹木・計量・むかしあそびなど
資料館横	屯田兵屋	（先人達のすまい）

【屯田太鼓】【屯田兵村射的場跡】

・教材化の視点

地域の歴史を学習する上で最適な素材であると考える。屯田兵に関わる行事や風習などを調べるような学習が考えられる。

《剣淵焼き》

・素材説明

剣淵の良質な粘土を使った焼き物。粘土はとても良質なものだが，これは元々中国大陸にあった古い粘土（黄砂）が風で飛ばされてきたものである。飛んできた粘土は６万年～４万年前に堆積した。カリウムが多く含まれ，比較的低い温度で溶融を始めるため，野焼きなどにも向いている。

・教材化の視点

実際に剣淵焼きを体験した上で，良質な焼き物を作る条件を探りながら，剣淵焼きに取り組む人々の思いを理解できるような教材化が考えられる。

《絵本の里》

剣淵町は，農業を基幹産業にまちづくりを進めているが，今日の農業情勢は厳しい状況にある。町には若者の雇用の場がほとんどなく，学校卒業者の多くは地元に残らず，都市部へと流出していくため，町の過疎化，少子高齢化はより一層深刻なものになっている。

昭和６３年当時の将来を案じた若者が危機感をつのらせ，「絵本」を町おこしの原点にしようと立ち上がり，同年６月「けんぶち絵本の里を創ろう会」を組織，絵本の里作りを展開した。

絵本を通じて町民に夢を与え，町に彩りを添え，町に活気を呼び起こそう・・・そして，地域の個性化と地域文化の創造を目指そうという発想で，行政はもちろん多くの人たちに影響を与えた。この発想は，絵本の里にふさわしいクリーンなイメージを大切にしたいという考え方へと発展し，無農薬，低農薬の農産物をつくる「剣淵・生命を育てる大地の会」を発足させ，絵本の里づくり構想が町の文化，産業，福祉へと浸透していった。

思いやり，やさしさ，勇気，愛・・・いろいろなことを人々に伝え教えてくれる絵本から夢や豊かな心を人々が手に入れることにより，まちづくりや人づくりに生かそうと現在も活動が続いている。

【絵本の館】

２００４年６月絵本や児童書約三万冊がそろう絵本によるまちづくり活動の拠点施設

【堀川真さんの創作教室】

知的障害者や親子が技法にこだわらず自由に絵を描き，工作遊びをした。

【オリジナル旗作り】

子どもたちが手作りの旗を絵の具で描いた。

【オリジナルプランターづくり】

絵柄ペイントを施した剣淵焼き鉢を木の鉢箱に入れたプランターボックスをつくり，花を植えた。

【作ろう遊ぼう木工おもちゃ展】

さわって遊べる木のおもちゃを展示，同時に木工教室を開催した。

【絵本の里キッズ都市交流】

東京・風連・剣淵の３地域交流の一環として，絵本の里の子どもたちを東京に派遣し，互いに文化交流を深めた。

【絵本作家講演会】

絵本作家による絵本への思いや創作にまつわるエピソードの講演がなされた。

【ふるさと絵本づくり】

「けんぶちふるさと絵本賞」を公募し，全国から２０作品の応募があった。

【絵本の里大賞コンテスト】

毎年夏に全国の絵本作家の作品が展示され，絵本の館来館者による投票で大賞が決定される。

※　教材化の視点

この素材は地域への思いを高める学習の素材として最適な取り組みであるといえる。この取り組みの原点は郷土愛であり，この取り組みを生徒達が調べ学習を通して，追体験することにより，関わる人々の地域への思いを理解することができ，更に郷土愛へと発展させることができると考える。課題の与え方としては『絵本の里づくりをもっと発展させよう』などが考えられる。